

15-7 カムイユカラ「アワキナベンザイ (アエパウ)」解説

語り手：鍋澤ねぷき
聞き手・解説：萱野茂

萱野：私は一匹のキツネでありましたと。アワキナと、どんな草よアワキナって。

鍋澤：した、awakina ってば、ま、青草。キツネはなんでも騙すことやるべ。するもんだから、hu... hu... hukina ani pencay kar hawe [生草で舟財船を作る] だべし。ってゆうような意味でないのか。

萱野：うーん、青草で船を作って、それに、えーシャモもアイヌも大勢の乗組員を乗せて海へ繰り出した。

鍋澤：それも作って。

萱野：それも全部その草で作って海へ乗り出したと。そうしたら一羽のカラスが飛んできて「どこ行くの？ キツネさん。そんなことしてよそへ行くんでないよ」と。「やっぱりアイヌの国土はいいから行くんでない」と言われても、それを聞かずにどんどん漕ぎ出していったと。

その次来た神様なんだ？ paskur [カラス] の後から来た。

鍋澤：ちょ、kamuy opitta [神様みんな] てば、ま、 mosir or_ ta oka kamuy [国土にいる神様] みんなから kese a=anpa [追いかけれ] しても。

萱野：あー、なるほど、なるほど、いろいろな神様が次から次と来て、戻りなさいと言っても戻らない。

鍋澤：ただ、paskur okkayo [カラスの男] と Aynurakkur [アイヌラックル] だけは k=eramuan korka [わかるけれど] あとの神様は kamuy opitta [神様みんな] っていうから。

萱野：あーなるほどね。いろいろな神様が戻っ……うーん、アイヌの国土へ戻り

なさい、戻りなさいと言っても、私は戻らずにどンドン沖へ漕ぎ出して行った。そうすると私たちの乗っ……私の乗っておるその船は青草で作っているので、それが間もなくこう、sumumke という、それは、あの一、こう……し、しなびちゃって、

鍋澤：し、しなびて、しなびて。

萱野：しなびてしまって、舟が沈んだ。そうしたら、もうアップ、アップ、アップアップもう水に今にも溺れそうになったのに、なってもう今はもうこれまでかと思っておるところへ誰かが来てさっと救い上げてくれた。そのまま、まあ気が付かないで、まあ気を失ってしまって、ポンとどこかへ下ろされたので、良く見ると私の昔住んでおった、a=kor ruesan [私の浜辺] といったな？

鍋澤：うん、うん。

萱野：自分の住んでおった場所へ持ってこられた。良く見る、良く見るとでない、そうやってポンっと下されて、気を付けて見ると ou... ouhuynikapattus [燃える樹皮衣] だな。んー、裾の方がさっ、すすのほう……裾の方にさっと炎の見た、んー厚司を着た人が助けてくれたんだと。それは Okikurmikamuy であったでしょう。

それから私はまだアイヌの国土で生活しておる一匹のキツネでありますという kamuyyukar [神謡] だな。

鍋澤：うん、うん。

(録音中断)

鍋澤：(pas)kur kamuy [カラスの神] とていうものは、この aynumosir_ ta isam eaykap. ok... oka yak easir pirka p ne [この国土にいなくなることはできない。いるからこそ良いのだ] ってゆう upaskuma [言い伝え] あるんだ。

萱野：cironnup [キツネ] と paskur [カラス] は aynumosir [人間の国土] にいた方がいいもんだって。並んでな。